

8/25
朝日

戦争背負う古老の姿 詠んで

介護福祉士

(高知県 34)

「八月の慰霊の旅や時を背負い重き歩行の古老の姿」

平和への思いを詠んだ短歌コンクール「八月の歌」(朝日新聞社主催)一般の部で入選し、先日岐阜県高山市であった表彰式に出席しました。これは私の入選歌です。一般の部の入選者5人中、私が最も若輩者でした。93歳を最高に、他の方々が自身の歌に込めた思いをしっかりと語られたことに感動しました。

これまで広島や長崎、沖縄と70年前に終わった戦争の悲

劇を伝える地を旅してきました。私はそこで会った古老——戦争を生き延びた人々が、懸命に祈る姿を詠みました。振り返ると、古老には生き残った喜びはなく、生き延びてしまった罪悪感と戦没者への懸命なる謝りがあるようでした。その姿に戦争は起こしてはならないと思いました。今、中東などで戦火が絶えません。日本でも平和憲法を交える動きがあり、今後はいつ戦争に巻き込まれるのか予断を許しません。ニュースを見る度に古老たちの姿が目につかびます。